

重ねた布の複合的な摩擦感
○松梨 久仁子 島崎 恒藏
(日本女大)

目的 実際の衣服の着用状態を考えると、皮膚面と単一な布素材との摩擦も重要であるが、皮膚面と複数枚積層された布との複合的な摩擦現象も着心地や素材の触感を把握する上で検討しておかなければならない問題である。そこで、前報¹⁾では、単独布と重ね布の摩擦感について MIU, MMD, SMD を中心に、両者の関係を検討した。本研究では、前報の結果を踏まえ、試料をしぼり込み、同じ布を重ね合わせた場合や、厚い布同士、薄い布同士など組み合わせの範囲を広げ、新たな手法も導入して単独の布と重ね布の摩擦感特性の関係について明らかにする。

実験 試料は表地として織物とニットあわせて12種類の布地(試料群A)、上に重ねる布地として裏地などの比較的薄地の織物からかなり厚地の織物まで計7種類の布地(試料群B)を選択した。これらの試料について KES-SE 摩擦感テスターを用い、単独布及び重ね布の MIU, MMD, SMD を測定した。また、MMD, SMD 測定においては、それとは別に波形信号を直接的に取り込んで、FFT による解析も行った。

結果 重ね布の摩擦感に関する特性 MIU, MMD, SMD は、A群とB群の試料それぞれの測定値の間で変化する傾向が見られた。波形信号から得られた重ね布のパワースペクトラムは、試料の組み合わせによってはA群、B群試料両方の特徴的なピークが複合して生じる場合があった。この手法は重ね布の MMD, SMD だけでは評価しきれない、摩擦感の相違を明らかにできるものと推定される。

1) 松梨、島崎：日本家政学会第50回大会研究発表要旨集、p.220(1998)